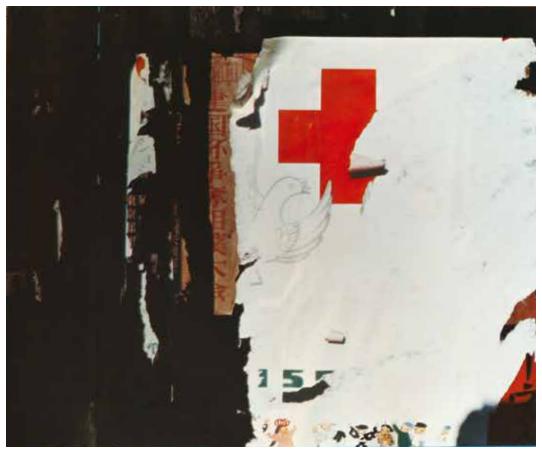


『CAMERA』1954 年 6 月号より「橋」



『写真サロン』1958 年 7 月号より「東京造型散歩 7」

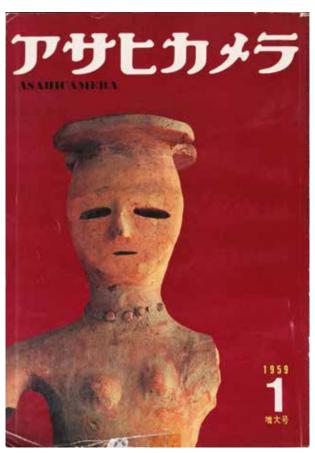




(左右とも)『写真サロン』1958年 10 月号より「東京造型散歩 10」



『CAMERA』 1956 年 7 月号表紙「パラソル」



『アサヒカメラ』1959 年 1 月増大号表紙「埴輪」

# [目録]

# 石元泰博掲載写真雑誌目録(1) 『CAMERA』『アサヒカメラ』『写真サロン』1953 年 4 月号~ 1959 年 1 月号

朝倉芽生 (高知県立美術館学芸員)

[List]

List of photography magazines featuring Ishimoto Yasuhiro (1) Camera, Asahi Camera and Shashin Salon, April 1953 – January 1959 issues

# ASAKURA Mei

This is a list of articles related to photographer Ishimoto Yasuhiro (1921-2012) that appeared in the respective April 1953 to January 1959 issues of the photography magazines *Camera*, *Asahi Camera* and *Shashin Salon* (*Camera* was discontinued after the August 1956 issue).

# [目録]

# 石元泰博掲載写真雑誌目録(1)

『CAMERA』『アサヒカメラ』『写真サロン』 1953 年 4 月号~ 1959 年 1 月号

# はじめに

本資料は、戦後日本を代表する高知ゆかりの写真家・石元泰博(1921-2012)に関する文献目録である。石元は、1921年アメリカ・サンフランシスコに生まれ、3歳の時に両親の郷里である高知県へと移り戻り少年期を過ごした。1939年に単身渡米するも間もなく太平洋戦争が始まり、日系人収容所での生活を経験。終戦後はシカゴのインスティテュート・オブ・デザイン(通称 ID、ニュー・バウハウス。1949年イリノイ工科大学に併合。)でバウハウスの流れを汲む教育理念のもと、石元作品の根幹を成す造形感覚と写真技術を培った。その後、日本の伝統建築にモダニズムを見出した「桂離宮」や、当地の街と人々を卓越したスナップで切り取った「シカゴ、シカゴ」等の作品で国際的に高い評価を受け、丹下健三をはじめとした名だたる建築家の作品を数多く撮影したことでも知られている。

石元の写真家としてのキャリアは半世紀以上に及び、写真界のみならず建築やデザイン、美術といった隣接する分野との様々なつながりが知られるため、石元およびその作品の各種文献類への掲載は広範かつ膨大であることが予想される。そうした中で今回は、網羅的な掲載文献調査のひとつの足掛かりとして、石元が1950年代日本に滞在した期間に発行された、戦前創刊の主要写真雑誌3誌―『CAMERA』、『アサヒカメラ』、『写真サロン』のみに対象を絞り、悉皆調査を試みた」。

石元は、ID 卒業後の1953年3月、ニューヨーク近代美術館写真部門学芸員のエドワード・スタイケンから「Family of Man」展出品作の収集などを依頼され、来日した。以降日本を拠点とするが、アメリカ国籍であった石元は在留資格の都合で1958年12月には一度アメリカへ戻っている。石元の来日当時、日本の各写真雑誌は、土門拳率いる「リアリズム運動」の主たるフィールドとなるなど日本写真界を牽引する存在であり、最先端の作品発表の場であった。そのため、当時の写真雑誌への掲載状況を調査することで、日本での石元の写真家としての活動最初期の様子や、石元が日本写真界にとってどのような存在であったのかを詳細に追うことができると考えられる。

今回調査対象とした3誌の他にも、『光画月刊』(発行:光画荘、創刊:1939年11月号、1955年1月より『月刊カメラ』に改題)や、戦後の写真雑誌ブームのなかで創刊された『サンケイカメラ』(発行:産業経済新聞社、創刊:1954年5月号)、『カメラ毎日』(発行:毎日新聞社、発行:1954年6月号)、『フォトアート』(発行:研光社、創刊:1949年5月号)等にもすでに掲載が確認されている。他分野の雑誌や一般書籍とともに今後も引き続き調査を継続し、石元の写真家としてのキャリアにおいて、1950年代の来日から再渡米までの6年弱がどういった意味を持ったものであったのか、また稿を改めて考察したい。

# 凡例等

本目録は、写真雑誌『CAMERA』(発行:アルス、創刊:1921年4月号)、『アサヒカメラ』(発

行:朝日新聞社、創刊:1926年4月号)、『写真サロン』(発行:玄光社、創刊:1933年1月号) 各誌の1953年4月号から1959年1月号まで(『CAMERA』は廃刊のため1956年8月号まで) のうち、石元泰博に関する記述が見られる記事で構成されている。記事の種別とそれぞれに付 した記号については以下の通り。

- ●…石元泰博の作品(石元作品の図版。今回、石元を写したポートレートや記録写真などは 含まない。)
- ○…石元泰博による論文等(石元が執筆した原稿のほか、インタビュー、聞き書きを含む。)
- ◇…石元泰博に関する評論等(石元自身および石元作品について言及されているもの。)
- □…関連文献(石元が参加したことが知られている展覧会、書籍、動向等に関する記事のうち、石元への直接的な言及がないものの、大きな特集や関連が深いと思われるもののみ収録した。)
- 書誌情報は原則として各記事ごとに時系列で掲載ページ順に収録した。同月中に複数の書誌が 発行されている場合は、『CAMERA』、『アサヒカメラ』、『写真サロン』の順で記載している。
- 石元泰博の作品図版が掲載されている記事に関しては、その図版が今回調査対象とした書誌のなかで初出である(他誌からの転載ではない、または他誌で既出のイメージではない)場合のみ、書誌情報の下に掲載した<sup>2</sup>。省略した場合は、適宜本目録中の参照先を編者の補足で示した。
- 作品図版は誌面より複写して得た、イメージの特定を目的とする簡易なものであるため、不鮮明な場合がある。また、誌面レイアウト自体がひとつの作品とみなされる場合を除いて、各イメージごとに個別の図版を作成し、原則として誌面での登場順に掲載した<sup>3</sup>。
- 編者による補足は〈〉内に記した。
- 旧字は原則として新字に改めた。
- 主な参考文献

『石元泰博展―シカゴ、東京』(財)東京都歴史文化財団、1998年

『石元泰博写真展 1946-2001』 高知県立美術館、2001 年

『高知県立美術館 館蔵品目録 10 石元泰博コレクション(1) 桂・伊勢』高知県立美術館、2011 年、2015 年(第 2 刷)

森山明子『石元泰博―写真という思考』武蔵野美術大学出版局、2010年

白山眞理『写真雑誌の軌跡』 ICII ライブラリー、2001 年

宮﨑真二『アルス―『カメラ』とその周辺―』JCII ライブラリー、2015年

記載例

発行年月 雑誌名と号数 (巻号通巻)

種別の記号 著者「記事タイトル」掲載ページ数

作品図版のタイトル 作品図版の点数

作品図版

作品図版のキャプション

• 石元の写真作品は全て©高知県,石元泰博フォトセンター

### 註

- 1 高知県は、生前の石元と交わした契約に基づき、本人と遺族からプリント約3万5千枚、フィルム約15万枚のほかカメラ機材や 書籍等といった石元旧蔵品の寄贈と、フィルムとプリントの著作権の譲渡を受けている。2013年には高知県立美術館内に「石元 泰博フォトセンター」を発足し、作品やアーカイブ資料の保存管理や調査研究、教育普及等の活動を行っている。当館では、 2001年に開催した「石元泰博 写真展 1946-2001」の図録や2012年に開催した「写真家・石元泰博の眼 桂、伊勢」展に合わせて 発行された『館蔵品目録10 石元泰博コレクション1 桂、伊勢』にて石元の主要な関連文献を紹介してきたが、より網羅的な文 献目録の編纂を目指し、継続的な調査を行っている。
- 2 石元作品は、シリーズ名が付されるのみで個別のイメージにタイトルがないものや、同一のタイトルが複数のイメージに付されているもの、公表されるごとにタイトルが異なるものなどが多いため、タイトルの文字情報のみで各イメージを特定することは難しい。
- 3 掲載当時は組写真として発表された作品についても、後年にはそれぞれ個別の作品として発表されたケースが多く確認できるため、今回はこのような扱いとした。

# 1953年8月 アサヒカメラ 1953年8月号(38巻8号通巻240)

●◇「石元泰博作品集 海辺スナップ」pp.24-27 10点



海水浴場の足







海水浴場の人々

#### 1953年9月 アサヒカメラ 1953年9月号(38巻9号通巻241)

◇ 伊奈信男、富永惣一「対談批評 8月号各誌口絵写真について」pp.131-136 〈『アサヒカメラ』1953年8月号掲載の「石元泰博作品集 海辺スナップ」について言及。〉

#### 1953年10月 CAMERA 1953年10月号(46巻4号通巻393)

□「写壇キャッチライト 「現代写真展」近代美術館で開催」pp.196-197

#### 1953年11月 CAMERA 1953年11月号(46巻5号通巻396)

□ 板垣鷹穂「現代写真展について」pp.77-80

アサヒカメラ 1953年11月号(38巻11号通巻243)

□ 金丸重嶺「現代写真展について」p.173

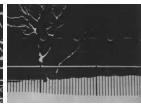
# 1953年12月 アサヒカメラ 1953年12月号(38巻12号通巻244)

●「雪」 pp.57-59

4点









4. 自動車

#### 1954年1月 アサヒカメラ 1954年1月新年増大号(39巻1号通巻245)

◇ 木村伊兵衛、渡辺義雄「対談批評 12月号各誌□絵写真について」pp.150-156 〈『アサヒカメラ』1953年12月号掲載の「雪」について言及。〉

### 1954年4月 CAMERA 1954年4月号(47巻4号通巻407)

- ◇ 田中雅夫「新刊紹介 U・Sカメラ年鑑1954年版」p.191 〈書影1点が掲載。〉
- ◇ 三瀬幸一「カメラギャラリー 石元泰博個展」pp.192-193 〈タケミヤ画廊での個展について。〉
- □「写壇キャッチライト 懸賞・コンテスト ニューヨーク近代美術館国際写真展作品募集」p.199-201

# アサヒカメラ 1954年4月増大号(39巻4号通巻248)

◇ 伊奈信男「展覧会月評 石元泰博写真展 (1月21日-31日 タケミヤ画廊)」p.189 〈「扉」「雪」が出展されていたとの言及有。〉

# 1954年5月 アサヒカメラ 1954年5月号(39巻5号通巻249)

◇「座談会 欧米写真芸術の展望 「U.S.カメラ年鑑―九五四年版」をみて」pp.122-128 〈写真の傾向に関する話題で石元の名前が挙がる。p.123〉

#### **1954年6月** CAMERA 1954年6月号(47巻6号通巻414)

●「橋」ノンブルなし〈巻頭〉 1点〈カラー作品。本紀要カラー口絵参照。〉



#### 1954年7月 CAMERA 1954年7月号(47巻7号通巻415)〈ママ。48巻1号通巻415〉

- ●◇「今月のベストテン 各誌六月号口絵写真より」pp.124-127 〈伊奈信男、金丸重嶺、田中敏男、亀倉雄策の選出により『CAMERA』1954年6月号掲載の「橋」が第4位となる。〉 「橋」1点
- ◇□「写壇キャッチライト 写真団体より グラフィック集団」pp.199-201 〈グラフィック集団からのお知らせ。〉

#### アサヒカメラ 1954年7月増大号(39巻7号通巻251)

●「スラム街の夏(シカゴ)」pp.41-44 4点









1. タバコ買いに

2. スイカ

3. ゴム風船

4. 公園にて

# **1954年8月** CAMERA 1954年8月合併增大号(48巻2号通巻417)

●「無題」pp.31-32 〈観音開き4ページ分を使ったタイポグラフィ等も含んだ構成作品。〉



◇「今月のベストテン 各誌七月号口絵写真より」pp.166-169 〈金丸重嶺、渡辺好章、亀倉雄策の選出により『アサヒカメラ』1954年7月号掲載の「スラム街」が8位となる。〉

#### アサヒカメラ 1954年8月号(39巻8号通巻252)

●◇ 冨永惣一、名取洋之助「対談批評 7月号各誌口絵写真について」pp.147-152 〈『アサヒカメラ』1954年7月号掲載の「スラム街の夏(シカゴ)」について言及。〉 「ゴム風船」1点

# 1954年9月 アサヒカメラ 1954年9月号(39巻9号通巻253)

● 伊奈信男「アサヒカメラ新写真講座29 写真のコントラストについて 表現目的のための手段」pp.129-132 1点〈『アサヒカメラ』1953年12月号掲載の「扉」参照。〉

### **1954年10月** CAMERA 1954年10月号(48巻4号通巻418)

●◇「今月のベストテン 各誌九月号口絵写真より」pp.130-133 〈亀倉雄策、田中雅夫、渡辺好章、三瀬幸一、田中敏男の選出により『サンケイカメラ』1954年9月号掲載の「アイスクリーム・スタンド」が5位となる。〉 「アイスクリーム・スタンド」1点



### **1954年11月** CAMERA 1954年11月号(48巻5号通巻419)

●◇「今月のベストテン 各誌十月号口絵写真より」pp.132-135 〈田中雅夫、名取洋之助、金丸重嶺の選出により『カメラ毎日』1954年10月号掲載の「東京の視感」が4位となる。〉 「東京の視感」1点



#### アサヒカメラ 1954年11月号(39巻11号通巻255)

● 伊奈信男「アサヒカメラ新写真講座31 むずかしい写真の鑑賞」pp.135-138 1点〈『アサヒカメラ』1953年12月号掲載の「自転車」参照。〉

### 1954年12月 CAMERA 1954年12月号(48巻6号通巻420)

◇「1954年度 日本写真界白書」pp.121-131〈「1 プロ写真界」、「3 写真展」の章で石元に言及。〉

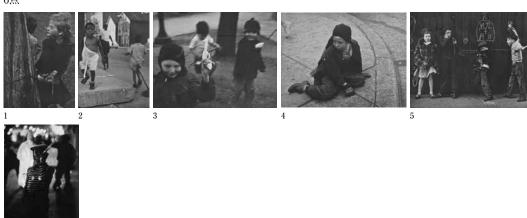
# **1955年1月** CAMERA 1955年1月新年特大号(49卷1号通卷421)

●「ハローウインの子供たち シカゴの裏街で」pp.63-688点



# **1955年2月** CAMERA 1955年2月号(49巻2号通巻423)

●「石元泰博作品集 シカゴの裏街で」pp.13-17 〈前号と同一の副題が付されている。〉 6点



●「児童のための写真壁画・試作 動物列車」pp.85-88 〈共著のため、どのカットが石元による撮影か不明。関わった人物と役割は以下の通り。デザイナー:伊藤幸作、アーチスト:浜田浜雄、ペインター:辻彩子、カメラマン:石元泰博、土方健一、大辻清司、樋口忠男、八木治〉点数不明



◇「編集後記」p.191

写真サロン 1955年2月号(24巻2号通巻132)

◇ 渡辺勉「あなたの本棚 近刊を検討する」p.142 〈『商業写真と特殊技術』(グラフィック集団編、ダヴィッド社刊) について。〉

# 1955年3月 CAMERA 1955年3月号(49巻3号通巻424)

●◇「今月のベストテン 各誌二月号口絵写真より」pp.128-131 〈田中雅夫、田中敏男、亀倉雄策、金丸重嶺、渡辺好章の選出により『CAMERA』1955年2月号掲載の「シカゴの裏街で」が2位となる。〉 1点〈『CAMERA』1955年2月号掲載の「1」。〉

# 1955年4月 アサヒカメラ 1955年4月号(40巻4号通巻260)

□ 富永惣一「写真展月評 グラフィック集団第二回展 (2月4日-9日・銀座松屋)」pp.202-203

#### 1955年5月 CAMERA 1955年5月号(49巻5号通巻426)

●○「街」pp.58-60 4点

作品1









作品3

# 1955年6月 アサヒカメラ 1955年6月号(40巻6号通巻262)

- □「ニューヨーク近代美術館 ファミリー・オブ・マン写真展」pp.65-70
- □ E記者「時の話題 ファミリー・オブ・マン写真展」pp.130-131

#### 1955年10月 CAMERA 1955年10月号(50巻4号通巻434)

●◇「今月のベストテン 各誌九月号口絵写真より」pp.119-122

〈名取洋之助、三瀬幸一、渡辺好章、田中雅夫の選出により『サンケイカメラ』1955年9月号掲載の「喫茶店・カラー東京」が8位となる。〉

「喫茶店・カラー東京」1点〈元はカラー作品。〉



◇「談話室 人間の家族展について エドワード・シュタイケン」p.128

# アサヒカメラ 1955年10月増大号(40巻10号通巻266)

◇ 名取洋之助、益田義信「対談批評 9月号各誌□絵写真について」pp.187-192 〈『サンケイカメラ』1955年9月号掲載の「カラー東京①―喫茶店」について言及。〉

#### 1955年11月 CAMERA 1955年11月号(50巻5号通巻435)

- 「特集 シャッター・チャンスの研究 1.シャッター・チャンスは近代写真の生命である」pp.97-107 「下町の子」1点〈『CAMERA』1955年2月号掲載の「1」参照。〉
- □ 福島辰夫「Camera Interview スタイケンのプレゼント」pp.161-163 〈エドワード・スタイケンの来日スケジュールが掲載。〉
- □ 阿部展也「エドワードスタイケンに会って」、伊藤逸平「スタイケンの来日とその意義」pp.97-99

#### アサヒカメラ 1955年11月号(40巻11号通巻267)

□「座談会 E・スタイケン氏を囲んで」pp.116-122 〈出席者:金丸重嶺、伊奈信男、三木淳、渡辺義雄〉

#### 1956年1月 アサヒカメラ 1956年1月特別増大号(41巻1号通巻269)

- ◇ 亀倉雄策、木村伊兵衛「対談批評 12月号各誌口絵写真について」pp.183-188 〈『サンケイカメラ』1955年12月号掲載の「馬場先門にて」について言及。〉
- □「アメリカの商業写真界 ハリー・K・シゲタ氏に聞く」pp.206-209 〈石元は、ハリー・K・シゲタにシカゴの写真クラブ入会を勧められ、写真を志すきっかけの一つとなったことが知られている。インタビューの聞き手は金丸重嶺、津村秀夫編集長。〉

#### 写真サロン 1956年1月号(26巻1号通巻143)

◇「連載・魚住励対談〔25〕 亀倉雄策と語る」pp.142-145

#### 1956年2月 CAMERA 1956年2月号(51巻2号通巻439)

●◇ 渡辺勉、渡辺義雄、名取洋之助「特集 作家とその作法 戦後一○年問題作 三○○点の解剖」pp.41-113 〈『カメラ毎日』1954年10月号掲載の「東京の視感」、『サンケイカメラ』1954年10月号掲載の「桂離宮の敷石」が取り上げられる。p.80〉

「東京の視感」1点〈本目録では『CAMERA』1954年11月号参照。〉、「桂離宮の敷石」1点



# 1956年3月 CAMERA 1956年3月号(51巻3号通巻440)

◇□ 伊奈信男、福島辰夫、重森弘淹「第一特集 世界写真名作の分析 Wフリーの作家たち」pp.11-60 〈主観主義写真の提唱者であるオットー・シュタイネルトの項で石元の名が挙がる。p.42〉

#### **1956年4月** CAMERA 1956年4月(51巻4号通巻441)

◇ 三瀬幸一「カメラ・ギャラリー 関東 写真は写真家の独占物ではない」pp.172-173 〈勅使河原蒼風の個展(1月20日-25日、松坂屋)に石元が関わったとの言及有。〉

#### 写真サロン 1956年4月号(26巻4号通巻146)

●「銀座の横顔」ノンブルなし 〈テキストは川原舜。〉3点





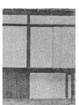


転落の二筋道

◇「あとがき」p.169

### 1956年6月 CAMERA 1956年6月号(51巻6号通巻444)

- ◇「ザ・ファミリー・オブ・マン われらみな人間家族展への招待」pp.1-38 〈金丸重嶺のテキスト中で出品作家として石元の名が挙がる。p.23〉
- ●◇ 渡辺勉「特集 写真界今年の課題 3第三の新人」pp.34-72 〈「芸術写真 写真の美を追求する人々」の項で取り上げられる。〉 「桂離宮」1 点〈日本カメラ 1956 年 5 月号より転載。〉



●◇「ベストテン 各誌5月号口絵より」pp.197-199 〈福島辰夫、名取洋之助、重森弘淹の選出により『日本カメラ』1956年5月号掲載の「桂離宮」が2位となる。〉 「桂離宮」1 点



□「オムニバス座談会 最近の話題を語る 1・ザ・ファミリー・オブ・マンについて」pp.124-131 〈出席者:木村伊兵衛、西山清、浦松佐美太郎、名取洋之助〉

#### 1956年7月 CAMERA 1956年7月号(52巻1号通巻445)

●「パラソル」〈表紙写真〉 1点〈カラー作品。本紀要カラー口絵参照。〉



- ◇「今月の表紙」〈目次ページ〉 〈撮影に同行した人物による無記名原稿。〉
- ●◇「今月のベストテン 各誌六月号口絵写真より」pp.105-107 〈伊藤逸平、田中敏男、福島辰夫の選出により『フォトアート』1956年6月号掲載の「板塀」が5位となる。〉



- ●○◇「特集Ⅲ 作家研究5 石元泰博」pp.165-188 〈石元についての特集記事。章立ては下記の通り。〉
  - ●「A 石元泰博作品集 —アメリカ時代—」 「シカゴのカメラクラブ時代」2点





「バウハウス時代 I 白と黒」3点







「バウハウス時代Ⅱ 足」7点〈下図の他、『アサヒカメラ』1953年8月号掲載の2、3、5点目参照。〉









「バウハウス時代Ⅲ 下町の子供」10点〈下図の他、『CAMERA』1955年2月号掲載の「1」参照。〉



















- ◇ 棚橋紫水、生出匡、渡辺好章、三木淳、三瀬幸一、伊藤逸平「アンケート」
- ◇「カメラ・ルポB 石元泰博の生活」〈大辻清司による石元の撮影風景の記録写真が掲載。〉

# ●「C 石元泰博・最新作品集 」











作品1

作品6

- ◇ 桑原甲子雄「1 石元君あれこれ」
- ●◇ 滝口修造「2 石元泰博の仕事」 「お面をかぶった子供」1点〈『CAMERA』1955年1月号掲載の1点目参照。〉
- ●○◇「写真対談 岡本太郎・石元泰博」

「黒人の子供たち」1点〈『CAMERA』1955年1月号掲載の1点目参照。〉、〈竹のオブジェの写真。撮影者不明。〉 2点



石元泰博氏制作 「竹」の造形

◇「編集後記」p.194

# 写真サロン 1956年7月号(27巻1号通巻150)

- □ 伊藤逸平「今月の話題 写真の演出家」p.135 〈グラフィック集団の展覧会について言及。〉
- ◇「九人の批評家、原爆写真の撤去に抗議」p.168 〈ファミリー・オブ・マン展の実行委員として石元の名が挙がる。〉

### **1956年8月** CAMERA 1956年8月号(52巻2号通巻446)

●○「子供」pp.14-15

〈「写真・構成・文 石本泰博」(ママ) とクレジットされている。〉 3点







+/1 +3

**も**かしべー

よらばなくぞー

●○「今月のベストテン 各誌七月号口絵写真より」pp.181-183

〈田中敏男、名取洋之助、重森弘淹、福島辰夫の選出により『CAMERA』1956年7月号掲載の「作品集」が2位、伊藤逸平、福島辰夫の選出により『サンケイカメラ』1956年7月号掲載の「カラー東京・銀座裏にて」が7位となる。〉「作品・5」1点〈『CAMERA』1956年7月号参照。〉

「カラー東京・銀座裏にて」1点〈元はカラー作品。〉



- □ 三瀬幸一「カメラギャラリー 関東 第三回グラフィック集団展」pp.186-187
- ◇「編集後記」p.196

〈前号の石元の特集について言及。本号をもって突如廃刊となる。〉

#### 写真サロン 1956年8月号(27巻2号通巻151)

- □ 渡辺勉「グラフィック集団展より」ノンブルなし〈3ページ分〉 〈石元が出展したとして知られているが、メンバーに石元の名が挙がっていない。〉
- ●○◇「魚住励対談(31) 石元泰博と語る」pp.132-135

〈石元への詳細なインタビュー記事。〉

〈『U.S. Camera 1954』紙面見開き〉1点、「桂離宮」1点〈『日本カメラ』1956年6月号より転載。本目録では『CAMERA』 1956年6月号掲載の2点目参照。〉



# 1956年9月 アサヒカメラ 1956年9月号(41巻9号通巻277)

- □ 阿部展也「今月の問題 写真のライブラリーを」p.115 〈国立近代美術館「今日の写真展」等について言及。〉
- ◇ 木村伊兵衛、伊奈信男「対談批評 8月号各誌口絵写真について」pp.132-137 〈『サンケイカメラ』1956年8月号掲載の「黄色いバス」について言及。〉
- □ 浦松佐美太郎「アサヒカメラ新写真講座 いわゆる『主観主義写真』について」pp.138-141 〈オットー・シュタイネルト『Subjektive Fotografie 2』などについて言及。〉

#### 写真サロン 1956年9月号(27巻3号通巻152)

●◇ 千種義人、石元泰博「フォトフォト自慢 11」ノンブルなし〈2ページ分〉 〈千種義人(慶大経済学部教授)が自作と石元の作品を比較しながら論じている。〉 「桂離宮」1点



### 1956年10月 写真サロン 1956年10月号(27巻4号通巻153)

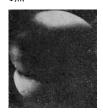
●「桂離宮にて」ノンブルなし〈1ページ分〉 1点



- ◇「オムニバスサロン 第3話 写真家兵隊見たて」pp.81-83 〈当時活躍した写真家が取り上げられ、「石元泰博少佐は工兵隊の建設隊長」と見立てられている。〉
- ●◇ 渡辺勉、重森弘淹、大場栄一「作品の鑑賞と技術解説」pp.154-157 〈本号掲載の「桂離宮にて」について渡辺が言及。〉 1点〈本号より転載。〉
  - ◇「あとがき」p.169

# 1956年11月 アサヒカメラ 1956年11月号(41巻11号通巻279)

●◇ 近藤日出造、伊奈信男「対談批評 10月号各誌口絵写真について」pp.134-139 〈『サンケイカメラ』1956年10月号掲載の「無題」(ヌード) について言及。〉



# 1956年12月 アサヒカメラ 1956年12月号(41巻12号通巻280)

●◇ 伊奈信男、中島健蔵「対談批評 11月号各誌口絵写真について」pp.142-148 〈『日本カメラ』1956年11月号掲載の「フォルム A・B」(ヌード) について言及。〉 「フォルム・A」1点



# 1957年1月 アサヒカメラ 1957年1月特別増大号(42巻1号通巻281)

◇「座談会 31年度話題の作家を検討する」pp.134-143 〈出席者:浦松佐美太郎、渡辺勉、田中敏男、金丸重嶺、伊奈信男〉

写真サロン 1957年1月号(28巻1号通巻156)

●「連作 こども 1」ノンブルなし〈2ページ分〉2点





◇「フォト・チップス」p.103 〈石元の結婚式についてのエピソード。〉 ●◇ 重森弘淹「新しい写真はドライか 非情なる写真 X ドライ」ノンブルなし〈4ページ分〉 「桂離宮」1点〈『日本カメラ』1956年5月号より転載。本目録では『CAMERA』1956年6月号2点目参照。〉、 「子供」1点〈『日本カメラ』1956年10月号より転載。〉



◇ 伊藤逸平、渡辺勉、重森弘淹、伊藤知己「新春放談会 両巨匠よ何処へゆく 木村・土門氏の不調の因は何か」pp.146-153

〈p.153で石元の名が挙がる。〉

- ◇ 天狗「オムニバスサロン 第1話 ドライ作家 石元泰博のすべて」pp.163-167 〈石元についての詳細な記事。石元の写ったスナップ5点、石元夫妻のイラスト1点が掲載。〉
- ●◇ 渡辺勉、重森弘淹、狩野優「作品の鑑賞と技術解説」pp.178-181 〈本号掲載の連作「こども」について重森が言及。〉 「こども」2点
  - ◇「あとがき」p.201

#### 1957年2月 アサヒカメラ 1957年2月号(42巻2号通巻282)

◇ 富永惣一「写真展月評 国際主観主義写真展(12月11日 - 16日・日本橋高島屋)」p.178

写真サロン 1957年2月号(28巻2号通巻157)

●「連作 こども 2」ノンブルなし〈2ページ分〉2点





- ●◇ 渡辺勉、重森弘淹、狩野優「作品の鑑賞と技術解説」pp.128-131 〈本号掲載の「こども」について重森が言及。〉 「こども」2点
  - ●「あとがき」p.156

# 1957年3月 写真サロン 1957年3月号(28巻3号通巻158)

●「連作 こども 3」ノンブルなし〈3ページ分〉2点





●◇ 渡辺勉、重森弘淹、狩野優「作品の鑑賞と技術解説」pp.148-151 〈本号掲載の「こども」について重森が言及。〉 「こども」2点

#### 1957年4月 アサヒカメラ 1957年4月増大号(42巻4号通巻284)

●◇ 阿部展也、伊奈信男「対談批評 3月号各誌口絵写真について」pp.150-157 〈『写真サロン』1957年3月号掲載の「こども」について言及。〉 「こども」(左・右) 2点 写真サロン 1957年4月号(28巻4号通巻159)

●「連作 こども 4」ノンブルなし〈1ページ分〉1点



- ◇「さんねんかんのうらばなしそうまくり 魚住対談楽屋話」pp.134-137 〈過去に石元も応じた魚住励のインタビューシリーズについて。〉
- ◇ 渡辺勉、重森弘淹、狩野優「作品の鑑賞と技術解説」pp.138-141 〈本号掲載の「こども」について重森が言及。〉

#### 1957年5月 写真サロン 1957年5月号(28巻5号通巻160)

●「連作 こども 5」ノンブルなし〈2ページ分〉2点





- ●○ 重森弘淹「作品の分析 土門石元の『こども』の違い」ノンブルなし〈4ページ分〉 8点〈『CAMERA』1955年2月号「1」、『写真サロン』1957年1月号掲載の1点目、同3月号掲載の2点、本目録 『CAMERA』1956年7月号掲載の17~20点目と同一イメージ4点。〉
  - 渡辺勉、重森弘淹、狩野優「作品の鑑賞と技術解説」pp.146-148 〈本号掲載の連作「こども」について重森が言及。〉
- ●○「あとがき」p.172 〈本号掲載の重森弘淹「作品の分析 土門石元の『こども』の違い」について言及。〉

#### 1957年6月 アサヒカメラ 1957年6月号(42巻6号通巻286)

- ●◇ 渡辺勉、宮本三郎「口絵作品 鑑賞と批評 5月号各誌」pp.124-130 〈『写真サロン」1957年5月号掲載の「連作 こども」について言及。〉 「こども」2点
  - ◇ 木村伊兵衛「アサヒカメラ年鑑(一九五七版)を見て」p.140 〈『アサヒカメラ年鑑』掲載の「桂離宮」について言及。〉

写真サロン 1957年6月号(28巻6号通巻161)

●「連作 こども 6」ノンブルなし〈2ページ分〉2点





◇ 渡辺勉、重森弘淹、狩野優「作品の鑑賞と技術解説」pp.181-183 〈本号掲載の「こども」について重森が言及。〉

#### 1957年7月 アサヒカメラ 1957年7月増大号(42巻7号通巻287)

●◇ 岩﨑鐸、名取洋之助「口絵作品 鑑賞と批評 6月号各誌」pp.134-139 〈『写真サロン』1957年6月号掲載の「こども・左」について言及。〉 1点〈当該号掲載の1点目参照。〉 写真サロン 1957年7月号 (29巻1号通巻162)

●「連作 こども 7」ノンブルなし〈2ページ分〉 2点





- ●◇ 重森弘淹「作品の分析 写真における造形とは」ノンブルなし(4ページ分) 「作品3」、「作品2」各1点〈『CAMERA』1955年5月号掲載の「街」より転載。〉、「桂離宮」1点〈『写真サロン』 1956年9月号より転載。〉
- ●◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と技術解説」pp.141-143 〈本号掲載の「こども」について重森が言及。〉 2点

写真サロン 1957年夏季特別号(29巻2号通巻163)

●「こども」ノンブルなし〈2ページ分〉 〈同誌での連作「こども」8回目。〉 2点





1957年8月 アサヒカメラ 1957年夏季増大号(42巻8号通巻288)(7・8月調整号との記載も有。)

> ●◇ 宮本三郎、浦松佐美太郎「口絵作品 鑑賞と批評 7月号各誌」pp.126-132 〈『日本カメラ』1957年7月号掲載の「桂」、『写真サロン』1957年7月号掲載の「こども」、『フォトアート』1957 年7月号掲載の「造形」について言及。〉

「桂」(第一ページ)〈キャプションの「大竹省二」は誤り。〉、「こども」(左)〈当該号掲載の1点目参照。〉、「造形」 各1点





アサヒカメラ 1957年8月増大号(42巻9号通巻289)

 $\bigcirc$ 「カッティング・ルーム」pp.71-73 〈「裁断する人」として朝倉摂、石元泰博、魚住励、名取洋之助が参加している。〉 1点〈他の撮影者による既存の写真を石元がトリミングしたもの。〉



●◇ 伊奈信男、益田義信「口絵作品 鑑賞と批評 夏季調整号各誌」pp.126-131 〈『日本カメラ』1957年夏季調整号掲載の「風景」について言及。〉 「風景」1点



写真サロン 1957年8月号(29巻3号通巻164)

●「連作 こども 9」ノンブルなし〈2ページ分〉2点





◇ 渡辺勉、重森弘淹、狩野優「作品の鑑賞と技術解説」pp.139-141 〈本号掲載の「こども」について重森が言及。〉

# 1957年9月 アサヒカメラ 1957年9月増大号(42巻10号通巻290)

●◇ 脇田和、伊奈信男「口絵作品 鑑賞と批評 8月号各誌」pp.126-132 〈『写真サロン』1957年8月号掲載の「こども」、『サンケイカメラ』1957年8月号掲載の「無題」(ヌード) について。〉 「こども」(左・右) 2点、「無題」1点



写真サロン 1957年9月号(29巻4号通巻165)

●「特集 野外ヌードバラエティ」図版:ノンブルなし〈36ページ分〉、テキスト:pp.77-89 〈企画は重森弘淹。撮影には石元のほか、梶原高男、奈良原一高、吉田潤、植田正治、真継不二夫、緑川洋一、 後藤敬一郎、田中信次、岡上淑子が参加している。〉 「六つの作品」6点













- ◇「力作はどうして生れたか ヌード特写の楽屋ばなし」pp.84-85 〈撮影中の石元の写真1点が掲載。〉
- ◇ 渡辺勉「ヌード写真の足跡 ヌードはスタジオから解放されていく」pp.86-89 1点〈『サンケイカメラ』1957年8月号より転載。本目録では『アサヒカメラ』1957年9月増大号参照。〉
- ◇「あとがき」p.206

# 1957年10月 アサヒカメラ 1957年10月特大号(42巻12号通巻292)

●◇ 伊奈信男、河野鷹思「口絵作品 鑑賞と批評 9月号各誌」pp.150-155 〈『フォトアート』1957年9月号掲載の「波」、『サンケイカメラ』1957年9月号表紙、『写真サロン』1957年9月号 掲載の「六つの作品」(3) について言及。〉

「波」1点、「六つの作品」(3) 1点〈当該号掲載の3点目参照。〉



#### 写真サロン 1957年10月号(29巻5号通巻166)

●「連作 こども 10」ノンブルなし2点





- ◇「月例第1部 入選作品」ノンブルなし〈7ページ分〉 〈準入選のアマチュア写真家すずむらかずひさ(下関)「かしわやの子供」の評に「一寸石元泰博ばりの心理的 作品である」とある。〉
- ◇ 渡辺勉、重森弘淹、狩野優「作品の鑑賞と技術解説」pp.138-140 〈本号掲載の「こども」について重森が言及。〉

# 1957年11月 アサヒカメラ 11月増大号(42巻13号通巻293)

●◇ 岡本太郎、伊奈信男「口絵作品 鑑賞と批評 10月号各誌」pp.134-140 〈『サンケイカメラ』1957年10月号掲載の「習作」(ヌード)、『写真サロン』1957年10月号掲載の「こども」に ついて言及。〉

「習作」1点、「こども」2点



# 写真サロン 1957年11月号(29巻6号通巻167)

●「連作 こども 11」ノンブルなし〈2ページ分〉2点





- ●◇ 北代省三「石元・島田氏に見られる構図の研究」ノンブルなし〈4ページ分〉 「こども」6点〈『写真サロン』1957年3月号掲載の2点目、5月号1点目、6月号1点目、7月号1点目、8月号2点目、10月号1点目を転載。〉、「無題」1点〈ヌード。『サンケイカメラ』1957年8月号より転載。本目録では『アサヒカメラ』1957年9月増大号参照。〉
  - ◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と技術解説」pp.130-132 〈本号掲載の「こども」について重森が言及。〉

# 1957年12月 アサヒカメラ 1957年12月増大号(42巻14号通巻294)

- ◇ 東郷青児、伊奈信男「口絵作品 鑑賞と批評 11月号各誌」pp.134-139 〈『写真サロン』1957年11月号掲載の「こども」について言及。〉
- ○「あなたも批評家」pp.142-143 〈山田広次「立体交差点」について発言している。石元のポートレートが1点掲載。〉
- ◇ 伊奈信男「1957 日本写真界を回顧する」pp.185-187 〈『写真サロン』の連載「こども」、同誌1957年9月号掲載の「六つの作品」、『日本カメラ』1957年11月号掲載の「桂・(1)」、同誌調整号掲載の「風景」について言及。〉

「こども」(3月号右) 1点〈『写真サロン』1957年3月号掲載の2点目)

#### 写真サロン 1957年12月号(29巻7号通巻168)

●「連作 こども 完」ノンブルなし〈2ページ分〉2点





●◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と技術解説」pp.148-151 〈本号掲載の「こども」について重森が言及。〉 1点〈本号1点目参照。〉

#### 1958年1月 アサヒカメラ 1958年1月特大号(43巻1号通巻296)

◇「伊奈信男連載対談 話題の口絵 12月号各誌から ゲスト 大宅壮一氏」pp.144-150 〈金丸重嶺が「私の選んだ十点」に『写真サロン』1957年12月号掲載の「こども」を挙げている。〉

#### 写真サロン 1958年1月号(30巻1号通巻169)

●「連作 東京造型散歩 1」pp.66-67 1点



○◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と舞台裏」pp.94-98 〈本号掲載の「東京造型散歩」について、重森と石元が言及。〉

#### 1958年2月 アサヒカメラ 1958年2月号(43巻2号通巻297)

- ●◇「伊奈信男連載対談 話題の口絵 新年号各誌から ゲスト 亀倉雄策氏」pp.128-134 〈『写真サロン』1958年1月号掲載の「東京造型散歩」について言及。富永惣一と渡辺勉が「私の選んだ十点」 に同作を挙げている。〉 「東京造型散歩」1点
  - ◇「写真界ニュース 日本写真批評家協会賞 第一回は浜谷浩ほか三氏へ」pp.169-171 〈石元が日本写真批評家協会賞作家賞を受賞したことに言及。〉

#### 写真サロン 1958年2月号(30巻2号通巻170)

●「連作 東京造型散歩 2」ノンブルなし〈2ページ分〉 1点



●○◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と舞台裏」pp.88-93 〈本号掲載の「東京造型散歩」について重森と石元が言及。〉 1点〈トリミング前の「東京造型散歩」〉



◇「写真界消息 団体」p.174

〈石元の日本写真批評家協会作家賞受賞について言及。受賞対象作品は、「世界日本の形、同サーカス、写真サロン子供、日本カメラ桂、中央公論機械、写真サロン、サンケイカメラヌード」とある。〉

### 1958年3月 アサヒカメラ 1958年3月号(43巻3号通巻298)

- □ 滝口修造「写真の造形と主観ということ」pp.125-127
- ●◇「伊奈信男連続対談 話題の口絵 2月号各誌から ゲスト 谷川徹三氏」pp.128-135 〈『写真サロン』1958年2月号掲載の「東京造型散歩」、『日本カメラ』1958年2月号掲載の「街」について言及。 富永惣一が「私が選んだ十点」に「東京造型散歩」を挙げている。〉 「東京造型散歩」1点〈当該号参照。〉、「街」1点



#### 写真サロン 1958年3月号(30巻3号通巻171)

●「連作 東京造型散歩 3」ノンブルなし〈2ページ分〉 1点



- ○「座談会 新鋭作家・批評家のみた 生きている名作」pp.75-81 〈出席者:石元泰博、伊藤知巳、重森弘滝、中村正也。石元のポートレート1点掲載。〉
- ●○◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と舞台裏」pp.88-93 〈本号掲載の「東京造型散歩」について重森と石元が言及。「学ぶべき技術」でも取り上げられる。p.92〉 〈トリミング前の「東京造型散歩 |〉1点



●◇「メカニズム大学3 レンズ部大口径科の巻 大口径レンズによる表現への期待」pp.138-143 「こども」1点〈『写真サロン』1957年7月号掲載の2点目を転載。〉

# 1958年4月 アサヒカメラ 1958年4月特大号(43巻4号通巻299)

●◇「伊奈信男連載対談 話題の口絵 3月号各誌から ゲスト 宮本三郎氏」pp.146-152 〈『写真サロン』1958年3月号掲載の「東京造型散歩」について言及。金丸重嶺が「私の選んだ十点」に同作を 挙げている。〉

「東京造型散歩」1点

写真サロン 1958年4月号(30巻4号通巻172)

●「連作 東京造型散歩 4」ノンブルなし〈2ページ分〉 1点



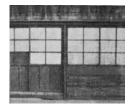
- ◇「フォトチップス」 p.149 〈「東京造型散歩」撮影の裏話に言及。〉
- ●◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と技術解説」p.152-155 〈本号掲載の「東京造型散歩」について言及。〉 〈トリミング前の「東京造型散歩」〉1点



1958年5月 アサヒカメラ 1958年5月三百号記念号(43巻5号通巻300)

●◇「伊奈信男連載対談 話題の口絵 4月号各誌から ゲスト 梅崎春生氏」pp.162-169 〈『カメラ毎日』1958年4月号掲載の「窓」について言及。金丸重嶺と富永惣一が「私の選んだ十点」に同作を 挙げている。〉

「窓」(色彩) 1点〈元はカラー作品。〉



◇ 渡辺勉「写真展月評 日本主観写真展(富士フォトサロン・3月14日~ 20日)」p.182

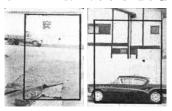
写真サロン 1958年5月号(30巻5号通巻173)

●「連作 東京造型散歩 5」ノンブルなし〈2ページ分〉2点



- 愛宕通英、小崎恭太郎「大型カメラの時代来たるか」pp.115-120 〈「大型カメラはかく使われている」の章でアンケートに答えている。〉
- ●◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と技術解説」pp.130-132 〈本号掲載の「東京造型散歩」について言及。〉

〈トリミング前の「東京造型散歩」〉2点



### 1958年6月 アサヒカメラ 1958年6月号(43巻6号通巻301)

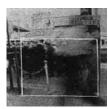
◇「伊奈信男連載対談 話題の口絵 5月号各誌から ゲスト 岡田謙三氏」pp.130-137 〈渡辺勉が「私の選んだ十点」として『写真サロン』1958年5月号掲載の「東京造型散歩の右」(本目録では2点目。) を挙げている。〉

#### 写真サロン 1958年6月号(30巻6号通巻174)

●「連作 東京造型散歩 6」ノンブルなし〈2ページ分〉1点



- ●◇「特集 撮影前の構図と撮影後の構図」pp.79-90 〈「3 つくる構図から切りとる構図へ」に作品図版掲載。重森弘淹による執筆か。p.87〉 「こども (3)」1点〈『写真サロン』1957年3月号掲載の2点目。〉
- ●◇「話題のスナップ 空前の写真集ブームが現出している」pp.94-95 〈出版予定の写真集として石元の名が挙がる。〉
- ●◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と技術解説」pp.132-134 〈本号掲載の「東京造型散歩」について言及。〉 〈トリミング前の「東京造型散歩」〉1点



#### 1958年7月 アサヒカメラ 1958年7月増大号(43巻7号通巻302)

- ◇ 渡辺勉「写真展月評 第一回写真批評家協会賞写真展(4月28日~5月7日・富士フォトサロン)」p.149
- ●◇「伊奈信男連載対談 話題の口絵 6月号各誌から ゲスト 坂倉準三氏」pp.150-157 〈『写真サロン』1958年6月号掲載の「東京造型散歩」ついて言及。富永惣一、渡辺勉が「私の選んだ十点」に 同作を挙げている。〉 「東京造型散歩」1点

#### 写真サロン 1958年7月号(31巻1号通巻175)

●「東京造型散歩 7」ノンブルなし〈1ページ分〉 1点〈カラー作品。本紀要カラー口絵参照。〉



- ◇「話題のスナップ 画学生たちの写真修業」pp.126-127 〈多摩美術大学で石元が受けもつ授業について言及。〉
- ◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と技術解説」pp.150-153 〈本号掲載の「東京造型散歩」について重森が言及。〉

# 1958年8月 アサヒカメラ 1958年8月号(43巻8号通巻303)

●◇「伊奈信男連載対談 話題の口絵 7月号各誌から ゲスト 高橋錦吉氏」pp.142-149 〈『サンケイカメラ』1958年7月号掲載の「街から」と、『写真サロン』1958年7月号掲載の「東京造型散歩」に ついて言及。「私が選んだ十点」で、金丸重嶺が「東京造型散歩」、富永惣一と渡辺勉が「街から」を挙げている。〉 「街から」2点、「東京造型散歩」(色彩)1点〈3点とも元はカラー作品。〉



新宿にて 西銀座にて

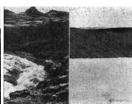
#### 写真サロン 1958年8月号(31巻2号通巻176)

●「連作 東京造型散歩 8」ノンブルなし〈2ページ分〉 1点



- ◇ 芳賀日出男「特別レポート 夏休み誌上大学 桑沢デザイン研究所 音のデザイン 石元泰博氏」pp.104-108 〈指導風景の写真2点掲載。〉
- ●◇「グラフ・ダイジェスト 石元泰博「海辺にて」(世界七月号)」pp.130-131 〈『世界』1958年7月号掲載の「海辺にて」について。〉 「海辺にて」5点〈誌面自体の図版。〉











●◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と技術解説」pp.142-143 〈本号掲載の「東京造型散歩」について言及。〉 「東京造型散歩」1点

#### 1958年9月 アサヒカメラ 1958年9月号(43巻9号通巻304)

- ◇「伊奈信男連載対談 話題の口絵 8月号各誌から ゲスト 東山魁夷氏」pp.142-150 〈『写真サロン』1958年9月号掲載の「東京造型散歩」に言及。渡辺勉が「私の選んだ十点」に同作を挙げている。〉
- ◇ 渡辺勉「写真展月評 10人の眼カラー写真展 (7月4日~16日、小西六フォトギャラリー)」p.175 〈渡辺が訪れた際石元は未出品だったとある。〉

写真サロン 1958年9月号(31巻3号通巻177)

●「連作 東京造型散歩 9」ノンブルなし〈2ページ分〉1点



◇「話題のスナップ 「ヌードフォト」集 (東京創元社)」pp.126-127

●◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と技術解説」pp.158-159 〈本号掲載の「東京造型散歩」について言及。〉 「東京造型散歩」 1点

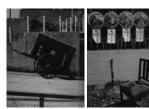
#### 1958年10月 アサヒカメラ 1958年10月増大号(43巻10号通巻305)

●◇「伊奈信男連載対談 話題の口絵 9月号各誌から ゲスト 五所平之助氏」pp.158-166 〈『カメラ毎日』1958年9月号掲載の「心象風景」に言及。「私が選んだ十点」で、益田義信、中島健蔵、富永惣一が『写 真サロン』1958年9月号掲載の「東京造型散歩」を、渡辺勉が「心象風景」を挙げている。〉 「心象風景」(色彩)1点、「東京造型散歩」1点



#### 写真サロン 1958年10月号(31巻4号通巻178)

●「連作 東京造型散歩 10」ノンブルなし〈2ページ分〉 2点〈ともにカラー作品。本紀要カラー口絵参照。〉



◇「話題のスナップ」pp.140-141

〈「東京フォトスクール開校さる」「スイス・カメラ「日本特集号」を発行」「戦後の風景代表作を収録した「現代日本写真全集」第六巻」の項で石元の名が挙がる。〉

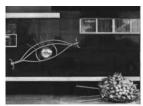
#### 1958年11月 アサヒカメラ 1958年11月号(43巻11号通巻306)

●◇「伊奈信男連載対談 話題の口絵 10月号各誌から ゲスト 吉野源三郎氏」pp.142-149 〈『写真サロン』1958年10月号掲載の「東京造型散歩」ついて言及。渡辺勉が「私の選んだ十点」に同作を挙げている。〉

「東京造型散歩」左・右(色彩)2点

#### 写真サロン 1958年11月号(33巻6号通巻180)〈ママ。31巻。〉

●「連作 東京造型散歩 11」ノンブルなし〈2ページ分〉 1点



- ◇「話題のスナップ アメリカへ帰る石元泰博」pp.132-133
- ◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と技術解説」pp.154-155 〈本号掲載の「東京造型散歩」について言及。〉

# 1958年12月 アサヒカメラ 1958年11月号(43巻12号307)

- ●◇「伊奈信男連載対談 話題の口絵 11月号各誌から ゲスト 十返肇氏」pp.150-157 〈『写真サロン』1958年11月号掲載の「東京造型散歩」について言及。宮本三郎、渡辺勉が「私の選んだ十選」 に同作を挙げている。〉 「東京造型散歩」1点
  - ◇「今月の新刊から」p.147〈写真集『ある日ある所』について。〉

写真サロン 1958年12月号(33巻7号通巻181)〈ママ。31巻。〉

- ◇「写真サロンの一大飛躍!」ノンブルなし〈巻頭〉 〈新年号の内容紹介で石元の名が挙がる。〉
- ●「連作 東京造型散歩 12 (完)」ノンブルなし〈2ページ分〉 1点



- ◇ 渡辺勉、重森弘淹、松田二三男「作品の鑑賞と技術解説」pp.156-157 〈本号掲載の「東京造型散歩」について言及。〉
- ◇「あとがき」p.166 〈石元のアメリカ帰国について言及。〉

# 1959年1月 アサヒカメラ 1959年1月増大号(44巻1号通巻308)

●「埴輪」〈表紙写真〉 〈構成は亀倉雄策が担当。〉 1点〈カラー作品。本紀要カラー口絵参照。〉



- ●◇ 伊奈信男「33年度に活躍した作家たち 連載対談「話題の口絵」をかえりみて」pp.155-157 〈『写真サロン』での連載「東京造型散歩」のほか、石元の来日以降の活動を論じている。〉 「東京造型散歩・6」1点〈『写真サロン』1958年6月号参照。〉
  - ◇「今月の新刊から」p.162 〈石元作品掲載の『現代日本写真全集 リアリズム作品集』(第4巻) について。〉
- ●◇「伊奈信男連載対談 話題の口絵 12月号各誌から ゲスト 波多野完治氏」pp.170-177 〈『写真サロン』1958年12月号掲載の「東京造型散歩」について言及。光吉夏弥、宮本三郎が「私の選んだ十点」 に同作を挙げている。〉 「東京造型散歩」1点
- ●◇「表紙構成者のことば」p.216 〈無記名だが、執筆は表紙の構成を担当した亀倉雄策と思われる。〉 〈トリミング前の「埴輪」〉1点



写真サロン 1959年1月号(32巻1号通巻182)

●「造形」ノンブルなし〈2ページ分〉1点〈本目録では『アサヒカメラ』1953年12月号「雪」4点目参照。〉

●「石元泰博代表傑作集」ノンブルなし〈8ページ分〉 〈タイトルなし〉1点



「海岸」1点



「こども」4点〈下図の他、『CAMERA』1955年1月号「1」「5」参照。〉





「造型散歩」1点



「桂離宮」3点〈下図は『CAMERA』1956年6月号2点目のトリミング違いか。この他、同号1点目、『アサヒカメラ』1957年夏季増大号1点目(天地逆)参照。〉



「ヌード」1点〈『アサヒカメラ』1957年9月増大号参照。〉

◇「在日六年、写真界をゆさぶった男 さよなら石元泰博」pp.69-71 〈石元氏を語る人々:浜口隆一、大辻清司、桑沢洋子、岡本太郎、亀倉雄策。石元のポートレート1点掲載。〉 「街」1点、「ある日ある所 海岸より」1点





- ●◇「話題のチャンネル 写真雑誌の口絵」pp.72-76 「東京造型散歩」1点(『写真サロン』1958年12月号参照。)
  - ◇ 伊藤逸平、重森弘淹、伊藤知巳「座談会 1.ぬりかえられる写真界 2.59年のホープ4人男」pp.78-81 〈「自分を貫く頑固男 石元泰博」として「ホープ4人男」の一人に選ばれる。石元のポートレート1点掲載。〉
  - ◇「あとがき」p.106 〈本号掲載の「石元泰博代表傑作集」について言及。〉